

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年3月24日

貞静学園貞静幼稚園

1 本園の教育目標

伝統と日本文化を大切にしながら、未来を生きる子どもたちに求められる素養をはぐくむ

2 本年度重点的に取り組む目標・計画

- (1) 幼稚園教員としての資質の向上、専門性の向上を図る。
- (2) 幼児教育の内容、方法の改善を図る。

3 評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	評価	取組状況
1	教育の質向上のために園内研修を充実させる。	A	東京都私立幼稚園連合会の主催する研修会に在籍するすべての教員が積極的に参加した。それをもとに園内研修会を行い、教員の資質向上を図った。外部から指導者を招き、実技中心の書写書道教育を行ったほか、貞静学園短期大学の先生を招き歌唱指導、発達障害への理解を深める研修を行い、園児への指導に活かしている。
2	「非認知能力」を育成し好奇心・探究心を育む。その過程においてICTを活用し、教育活動を充実させる。	A	幼稚園として「とうきょうすくわくプログラム」を趣旨として探究活動に取り組んだ。学年ごとにテーマを定めて活動を行った。探究活動ではICTを効果的に活用し、園児の興味関心を高めた。これにより探究活動の充実を図ることができた。

※活動報告については別紙参照

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4 総合的な評価結果

評価	理由
A	2つの評価項目に取り組んだ結果、教員一人ひとりの資質の向上を図ることができた。前年度から積極的に外部の研修会に参加を促すことを継続した結果、自身の資質を向上させようとする意識がとて高くなった。それぞれの教員が運動遊び、発達障害、ICT活用などの専門性を高めたいと意欲をもち始めた。これにより幼稚園全体の教育力が高くなり、従来と比べて質の高い保育を行うことができるようになった。園児は主体的に話し合い活動に取り組むようになり、運動会や園外保育の際に自分たちの意思を反映することができた。活動の際、どうするとよりよくなるのかを自分たちで考えるようになった。保護者アンケート(「ICTを活用した教育活動について」肯定的な回答97%)

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5 今後取り組む課題

	課題	具体的な取組方法
1	教員の資質の向上、保育力向上	教員一人ひとりが東京都私立幼稚園連合会主催の研修会に参加し、資質・指導力向上を図る。(通年) 各学年の保育活動を相互に見合い、話し合うことで指導力向上を図る。(夏季預かり保育中)
2	ICT活用指導力の向上	電子黒板、書画カメラ等を用い、子どもにとってわかりやすく、興味関心が高まるような提示の研究を進める。さらに子どもがICTを活用し、主体的に学ぶ活動を研究する。(すべての保育室に電子黒板と書画カメラの設置)
3	幼小接続	子どもが小学校入学後に「小1プロブレム」に陥らないような研究と実践に取り組む。 小学校の授業を実際に見学に行き(令和6年度は3名)、小学校での指導法を学び、幼稚園での指導に生かす。 小学校教育におけるICT活用の情報を得て、幼稚園教育に生かす。

6 学校関係者評価委員会の評価

非認知的能力を向上させようとする取組は高く評価できる。これからも継続してもらいたい。
外部や短期大学の講師を招いて教員の資質向上を図っていることは大変よい。日々の指導にすぐに生かせる内容であることもよい。
この取組によって園児が話し合い活動に主体的に取り組むようになり、自分たちのことは自分で決めようとする態度が育成されてきた。教員も活動の指導中に園児の「なぜだろう」という疑問を引き出し、次の活動に生かすなど指導法の改善につながっていることがよい。

【年少組】

2024年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書

1 活動のテーマ
<テーマ>

音

<テーマ設定の理由>

- ・年少組の園児は1学期に初めて楽器に触れ、音が鳴るものに興味を持った。
- ・9月の音楽会を通して楽器を鳴らし、周りの子と音を合わせることの楽しさを味わったため。
- ・園児は自分自身が演奏した楽器以外の楽器にも興味を示しているため。

2 活動スケジュール

- ① 様々な楽器の音に触れる。たたき方や力加減による音の違いを発見する。
- ② 廃材を使い、楽器と似た音を探す。
似た音により近づくように話し合いを重ね、一人ひとりの発見を共有する。
- ③ ②で見つけた音(廃材)を使い、オリジナルの楽器を作る。

3 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり等

① 第1回「様々な楽器の音に触れる」

- ・楽器を準備する
→タンバリン、鈴、カスタネット、トライアングル、マラカス大太鼓、中太鼓、小太鼓、卓上木琴、ベルリラ、シンバル
- ・名称を伝える
- ・自由に鳴らす
- <事前にかけた言葉>
- ・どんな音がするのかよく聞くこと
- ・鳴らす中で、音に変化があったら教えてね

- ・子どもたちは楽器を出した時から興味津々で、積極的に取り組んでいた。
- 初めのうちは楽器に触れることに興味を示し、鳴らすことを楽しんでいた。
- ・マラカスの中の音に興味を持つ園児が現れる
- 砂みみたいな音がする、と考えていた
- ・バチを変えたり、手で触れる楽器を鳴らす園児が現れる
- 音の変化を発見
- 数名の園児にクラス全体に変化を発表してもらう
- 他の園児も真似を始め、それぞれが変化を発見していた
- ★太鼓類は手で叩いても音が聞こえる、
- ・バチの玉の部分と柄の部分では音の大きさが違う
- ・卓上木琴やベルリラは手で叩くと音が鳴らない
- ・トライアングルはバチによって音が変わる
- ・強く叩き、大きい音を楽しんでいる園児
- 「優しく叩くとどうなるんだろうね？」と声を掛ける
- 「なんか小さくなった！」と他の楽器でも強弱による違いを発見する
- 太鼓の面の場所によって少し音が変わることを発見する

<振り返りによって得た先生の気づき>

・楽器を紹介した時点で、園児の高揚感がかなり高かったため、音に設定してよかったと感じた。
・初めの声掛けだけで、「音の変化」に気が付くとは思っていなかった。
→楽器に触れることに集中してしまうと思っていた。
・子どもの方から「パチを変える」という発想が出たことに驚いた。
・全体の前で感じたことを発表してもらうと、他の園児に「自分も試してみたい」という興味がわいて、良い取り組みだったと感じる。
・活動後の自由遊びで、ペットボトルに砂を入れて音を楽しんでいる姿がみられたため、次の活動につなげていきたい。

<活動の様子>



② 第2回「廃材を使い、楽器と似た音を探す」

・廃材を準備する
→空き箱、空き缶、ラップの芯、トイレトペーパーの芯、牛乳パック、ペットボトル 等
・自由に探す
<事前にかけて言葉>
・楽器も鳴らして、聞き比べてみてね

ラップの芯と空き箱を使い、「太鼓の音と似ている！」と発見する子どもが多かった。また、空き箱と空き缶では聞こえる音が違うという声があった。どの園児も廃材を叩くばかりで、なかなか似た音の発見に至らず難航したが、こちらから「どの楽器の音に似ていた？」と問うと探し始めた。

【楽器に似た廃材の音】

ラップの芯 + 空き箱 → 中太鼓

ラップの芯 + 空き缶 → 小太鼓

空き缶 + 木製チップ → タンバリン

ペットボトル + 木製チップ → マラカス

キッチンペーパーの芯 + スプーン → ウッドブロック

缶 + 缶 → シンバル

<振り返りによって得た先生の気づき>

・活動が始まったばかりの時は、目的があまり伝わっていなかったのか、ただ廃材を組み合わせたりがき集めたりして遊んでいるだけのように感じた
→音の見本としておいてある楽器を鳴らすことに夢中になっている園児も多かった
・問いかけを通して少しずつ似た音探しに取り組むことができるようになったが、活動自体の難易度が高かったのかもしれないと感じた
→叩く以外の方法ではどうしたら音が鳴るのか全員で相談する時間を設けると、考えるようになった
・太鼓関連の発見が多かった
・容器の中に何かを入れることで音が鳴ることを学んでいた

<活動の様子>



③ 第3回「廃材を使い、オリジナルの楽器を作る」(マラカス)

- ・廃材を用意する
 - 入れ物:ペットボトル(大きさ・形は問わない)
 - 中身:クリップ、アイロンビーズ、ビーズ、紙粘土を丸めたもの、お米、乾燥豆、ストロー
 - ・ひとつひとつの音を知る
 - ・自由に製作する
- 〈事前にかけて言葉〉
- ・入れるのは一種類でも複数でもよい
 - ・どんな音になるか確かめながら進めること
 - ・本物のマラカスと聞き比べる

- ・素材ごとに音の変化があることを知ることができた
- ストローや紙粘土は小さい優しい音がした
- お米は本物のマラカスに似ている
- 豆やビーズは音がかなり大きい、少し怖い
- ・容器にいっぱい詰めてしまうと音が鳴らなくなることを発見した
- ・一種類でも良い音だったけれど、複数でもきれいな音になる
- ・自分のマラカスと友だちのマラカスでは違う音がする
- 同じ音にはならない、量によって高くなる

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ビーズや乾燥豆の音は良いなと感じていたが、耳をふさぐ子どももいて、聴覚の感じ方に違いがあるんだなと感じた。
- ・見た目で見分けるのではないかと、選ぶ素材に偏りがあるのではないかと考えていたが、偏りはほとんどなかった。
- ・マラカスづくりの間は常にマラカスの音が鳴っていて、どんな音になったか確認しながら取り組んでいることがしっかりとわかった。
- ・音に関してだけでなく、今までは使ったことがない素材の扱い方を考えるきっかけにもなった。

<活動の様子>



【年中組】

2024年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書

1 活動のテーマ <テーマ>

音

<テーマ設定の理由>

・9月の音楽会で、合奏にとても前向きに取り組む姿が見られた。また、年長組の発表を見た時に、来年やりたい楽器を見つけるなど、様々な楽器に興味を持つ様子が見られた。それらのことを踏まえて、合奏という目線から音についての新たな気づきを発見し、活動を発展させていきたいと考えた。

2 活動スケジュール

1, 音楽会で担当した以外の楽器に触れる。
2, フィールドワーク、自然の音探しを行い、園庭の物で音を探す。
3, 楽器ではないもので音楽に合わせて、自らリズムを考える。

3 探究活動の実践 <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり等

① 第1回「音楽会で担当した以外の楽器に触れる」

・楽器
→タンバリン、鈴、カスタネット、トライアングル、マラカス、大太鼓、中太鼓、小太鼓、シンバル
ウッドブロック
・電子黒板、書画カメラ
・楽器決め、違う楽器のリズムの確認

・音楽会で担当していたもの以外にも、興味のある楽器が多く、「これやってみたい！」という声が多く上がった。
・他の楽器のリズムをよく理解して覚えていて、演奏することができた。
・グループに分かれて演奏している姿を電子黒板で写し、自分の演奏する姿を見たり、友だちのリズムの打ち方を確認したりした。
→叩き方や、音の強弱を視覚からも感じることもできた。
・自分や友だちの演奏を聴いて、担当した楽器との音の違いを見つけたり、友だちの演奏の仕方で真似したい所を探し、話し合った。
→「鈴を演奏して、シャンシャン可愛い音が鳴った」「友だちの演奏していた太鼓は、ドンドンと、強い大きな音でびっくりした」「前の楽器よりも高い気がする」など
・音楽会で演奏した楽器とリズムが違うため、友だちに「どんなリズムだっけ」と聞いたり、「こういうリズムだよ」と教えたり、リズムを確認しあう様子が見られた。
→「やってみたら難しかった〇〇君凄いね」と、異なるリズムを演奏する難しさと友だちへのリスペクトの気持ちを感じることができた。

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・同じ楽器やリズムでも、演奏する園児によって音の大きさや音色が大きく異なった。園児の個性が音に現れていた。
- ・電子黒板を使用することで、園児の表情や楽器の持ち方、演奏の仕方が大きくはっきりと見えて、分かりやすかった。
- ・自分の担当した以外で、興味のある楽器に触れることで、クラスの音楽活動に更に興味、関心が湧く園児が多かったように感じた。
- ・園児たちの中に、打楽器から音程というところまで意識をすることができていたことに驚いた。
- ・自分の手元だけ見るよりも演奏している全体像を見ると演奏の仕方や強弱の仕方を工夫する様子が見られたので有用だったと感じた。
- ・音楽会という導入があったので積極的に取り組む事ができた。
- ・次回の音探しの時にも今回の経験を生かして、音の高さの違いや、強弱での音の出方の違いを感じられると音に対する理解が深まるのかと感じた。

<活動の様子>



② 第2回「フィールドワーク、自然の音探しを行い、園庭の物で音を探す。」

・電子黒板、書画カメラ

・普段園庭で遊ぶ際に使う遊具
(バケツ、シャベル、スコップ、虫かごなど)

・想定していたバケツ、シャベルなどで音を探す以外にも、シャベルで玄関のドアを叩いてみたり、走りながら門や柵を連続で鳴らしてみたりなど、園児たちは多くの音を探し、生み出していた。
→・スコップで壁、砂、鉄、アスファルト、タイル、木、プラスチック等を叩く、砂を掘る。
・ボールを優しく投げる、強く地面に叩きつける、壁にぶつける、ガラスにぶつける。
・靴で地面を踏む、靴で砂をこする、ぼつくりに乗って地面を踏む、鉄棒の練習の台を踏む。
・手でプラスチック、緩衝材、鉄、壁を叩く。水道から水を出す。
・他の楽器のリズムをよく理解して、演奏することができた。
・園児が音を探し、鳴らしている様子を撮影し、その後電子黒板で写し、自分や友だちの探した音を確認したりした。
・自分や友だちの出す音を聴いて、感じたことや興味の湧いた音について話し合った。
→「バケツを叩く音が小太鼓を叩く音と似ていた」「シャベルで門を叩く音が大きくて、怖かった」
「穴の中で声を出したり、スコップ同士で音を出すと響いた」
・スコップで音を鳴らす時に、叩く場所や物の違いで音の高さや響きが違うことを発見した。
ex.鉄を叩くとキンキン鳴るがスコップ同士だとコンコン鳴る。滑り台の下の空洞では音が響く。
→音が響く現象を「音を閉じ込めると響く」と表現した幼児がおり、バケツを裏返えて地面に置き、中に空洞を作って鳴らした音に対しても同じ感想を持っていた。
・靴で砂やタイルをこすった時に出た音から、こすった時にも音が出ると気付いた幼児がいた。
→こすっても柔らかすぎると音が出ないということにも気付いた。
・自ら発見したり作り出した音を保育者に伝えようと、積極的に言葉をかけてくる姿が多く見られた。

<振り返りによって得た先生の気づき>

・自ら音を探す、それをフィードバックして自分や友だちの出した音について話し合うというような園児が自ら考えて取り組み、主体性を持つことで、活動への興味・関心・進んで意見を言葉にして発表する力が育ったと感じた。
・取り組みを通して、「シャベルで門を連続で叩く」「異なる音やリズムを、友だちと同時に奏でる」など、大人だと想定もしない音や考えを生み出す園児たちの姿に驚き、自分自身も勉強になった。
・子どもの中にはいろいろな物を使って音を探す子もいれば、バケツを中心に考え、バケツから出る音の種類をたくさん見つけようとする子がいたり、一人一人がどういう音を出そうか考えて取り組んでいた。
・音を出す姿を見て叩きかたや音を出す場所も音の違いに関係することに気付くことができているため、一人一人が自身の視点で違いを感じていた。

<活動の様子>



③ 第3回「楽器ではないもので音楽に合わせて、自らリズムを考える。」

- ・電子黒板、書画カメラ
- ・普段園庭で遊ぶ際に使う遊具
(バケツ、シャベル、スコップ、虫かごなど)

- ・前回のフィールドワークで見つけた音以外に、どのような音があるか、友だちはどのような音を見つけたかを積極的に探していた。
- ・音楽とは何かを考える
 - 楽器は音が出るもの。音楽になっているか、なっていないかの違いはリズムに合ってるかどうかであり、それに合わせて歌えれば音楽になると子どもたちの話し合いの中で仮定した。
- ・この活動でどんなことに取り組みたいか園児に聞く。
 - 探した音を友だちと一緒に奏でる。
 - ・好きな曲に合わせて合奏をする。
 - ・探した音を友だちに聞いてもらい、感想を聞く。
 - ・音当てクイズをする。
- ・探した音をもとに、好きな曲について話し合ったり、合図を出して歌いながら音を奏でていた。
- ・自分たちが探したお気に入りの音で、音楽会で演奏した「シンコパйтеッドクロック」や「ミッキーマウスマーチ」の合奏をする
- ・自分なりにリズムを考え、できた子から撮影。(一人でも数人でも可)
 - 初めは一人で撮影していた子も他の子と共同で音楽を作るようになった。最終的には全員で音を鳴らしたいという要望でクラス全体で演奏した。
- ・園児が探した音や合奏を撮影し、電子黒板に移して全体で見る。その後感じたことを発表した。
 - 色々な音が混ざりあうとそれが違う音になっていた。
 - 最後にみんなで演奏した時は音楽会での演奏のような迫力を感じた。
 - 練習したリズムが最後に演奏した時に上手にできた。
 - 四人くらいで演奏すると綺麗な音が出た。
- ・音とはなに？と問いかける。
 - 音楽や歌
 - 音楽とかを作れて楽しいもの
 - 演奏、歌、ピアノを合わせると綺麗になる。
 - 自然に生まれてくるもの

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・好きな曲に合わせて友だちと話し合い、音を奏でることで、自分の意見を言葉にして伝えることや、音を通じて友だちと意思疎通をすることができた。
- ・音楽会で演奏したリズムを明確に覚えていて、アレンジをして演奏している園児もいた。自分で音を探し、取り組みたい内容を自分で考えることで、主体的に活動することができた。
- ・バケツを組み合わせたたり並べたりして、ドラムを作っている園児がいた。一つの音を探すだけでなく、そこから楽器を作ったり音の鳴らし方を工夫して変えていて、想像力が膨らんでいると感じた。
- ・まとめの際に、音の混ざりあいさらなる音を生むという様に、音が混ざり合うという発想力に驚いた。
- ・始める前の、音楽になるためにはどうしたらいいかという問いかけに対して、歌えれば音楽になるという回答は、音楽会で歌や楽器を行ったから出た発想だと感じた。
- ・演奏のリズムを探す中で、音の迫力という音圧の部分にも気付くことができたので、深い学びになった活動だと感じた。

<活動の様子>



【年長組】

2024年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書

1 活動のテーマ

<テーマ>

紙

<テーマ設定の理由>

・本園は製作活動が盛んであり、製作が好きな子どもや得意な子どもが多くいるため。
・幼稚園には様々な紙類があることから身近なことに興味関心をもたせたいと考え、「紙」をテーマに設定した。

2 活動スケジュール

- ① 「紙」ってなんだろう？何のためにあるのか、どんな種類、特徴あがるのかなど、様々な着眼点から「紙」について考える。
- ② ①の活動から生まれた疑問や思いをさらに深める。様々な紙類を準備し、子どもの思考を支援する。
- ③ ①②の活動をさらに発展し、子どもたちが自分の意思で紙類を使って作品を作りたいという意欲を喚起する。

3 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり等

①第1回「紙ってなんだろう？」

- ・電子黒板準備
- ・3、4人を1グループとしてグループでの話し合い開始

◆子どもたちの紙へのイメージ

かく、よむ、おる、きる、ちぎる、しまえる、かく
・工作に使える ・ぐちゃぐちゃにできる ・まるめる ・ふくためにある(のり、テーブル)

→身近な紙の話に展開

- ・写真の紙 ・名札の紙・楽譜・ティッシュ・マスク・段ボール・シール・本・折り紙
- ・新聞紙・壁紙・画用紙・模型・カレンダー・トイレットペーパー

◆子どもたちの疑問

・紙は木でできている ★電子黒板を使用し、紙の成り立ちを見たいという要望あり

⇒木のチップを洗浄→パルプを作る→浄化させ繊維をかためる

→なぜ木の色じゃないの？ →薬の液体で脱色・脱水

・国によって違う紙があるのか

・紙の他の使い道

・紙は水に弱いのになぜ牛乳はもれないのか

・水があれば、身近にある紙をとくことができるのか

⇒トイレットペーパー・芯・ティッシュ箱・画用紙・花紙・段ボールを手やはさみで細かく切る

→トレーに平らに広げ、水にひたして変化を観察する

💡身近にあるものでパルプは作れるのか！

4 ①<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・紙ってなんだろう？という漠然としたテーマに対して、初めは同じような意見、イメージが多くでていたが、グループごとに話すことによって話の方向性に個性がではじめた。
- ・グループワークをすることによってお互いの意見を聞いたり、伝えたりとやりとりの楽しさを感じている様子だった。
- ・子どもたちが、全員グループの話し合いに参加し、意見を交換していて活気がある活動になった。

5 ①<活動の様子>



②第2回「いろいろな紙に触れてみよう」

- ・電子黒板準備
- ・色々な紙を用意
(・ティッシュ・マスク・段ボール・包装紙・半紙・折り紙
・新聞紙・壁紙・画用紙・トイレトペーパー)
- ・3、4人を1グループとしてグループでの話し合い開始
- ・紙を切るためにはさみ使用

・紙は水に弱いのになぜ牛乳はもれない？
グループに牛乳パックを配り自由に観察
→触る、切る、叩く、はがすetc・・・
はがしていくとつるつるのコーティングの紙の間に何層も紙があるということを見

他の紙の観察

- ・半紙はサラサラとザラザラの面がある！
(紙に水性マーカーで文字を書き水に濡らしてみる)
→水に濡らすと色も溶け紙も分裂していく
→普通の紙は文字は溶けない
→牛乳パックのつるつる面に書いたものは全部きれいになくなった
 - ・柔らかい紙でも束になれば1枚の硬い紙よりも硬く丈夫になる
 - ・紙コップ、ティッシュボックスも層があった！つるつるコーティングあり
→その後「なにか作ってみたい」ということができた
- EX.ロボット、花
半紙に色をつけて沢山重ねる

★1番身の回りにある紙ってなに？

折り紙、画用紙、ティッシュ、チケット、花紙、コロコロ、トイレトペーパー(芯)、写真、レシート

★2どんな素材？

つるつる、ざらざら、やわらかい

★3紙は何からできている？においがするのはなぜ？

木、葉っぱ

★4トイレトペーパーには細かい色がついているのはなぜ？

リサイクルしている

💡紙を水につけて、乾かして紙の変化が見たい

4 ②<振り返りによって得た先生の気づき>

・各グループごとに色々な紙の研究をするにあたり紙の薄さ、厚さ、強度に注目があつまっていた。
他の人の発見を自分自信も試してみたいということが多く、
半紙を水でぬらして溶ける様子を楽しんでいた。

・電子黒板の書画カメラで自分の研究結果を皆に見せて伝えることができ
自分の意見を上手に伝えることができていた。

・グループの話し合いの中で、紙に水がしみる為には、紙を小さく切る方が、しみやすいのではないか・・・と言う意見が飛び交った。段ボール等、厚みのあるものは紙をはがすと薄くなり切りやすい発見があった。水をトレーに入れた時の、紙の色の変化や触った感触を共有した。活動が終わった後も、紙に変化があったのか気にかけていたので、さらに関心が深まっていた。

5 ②<活動の様子>



③第3回「紙の特徴を利用してなにかをつくってみよう」

- ・紙の特徴を活かす
- ・本物に近ずける
- ・電子黒板準備
- ・色々紙を用意
(・ティッシュ・マスク・段ボール・包装紙・半紙・折り紙
・新聞紙・壁紙・画用紙・トイレトペーパー)
- ・3、4人を1グループとしてグループでの話し合い開始
グループは2回目からの継続
- ・出たアイデアを実際に工作する
- ・書画カメラを用いて工程やポイントを発表

各グループ話し合っただけでなにをつくるかをすぐに決めていた。意見を出し合い、作業担当等を決めて効率よく行っていた。教諭が何をつくっているかを聞くと笑顔で答え、どんな機能があるかを説明してくれた。

その後グループごとに電子黒板、書画カメラを使って発表をした。

作り方や、ポイントを説明した後、質疑応答をし、活動を終了した。

- ・モーターボート
牛乳パックを8個つかい、ボートをつくった。
前回の牛乳パックの特徴(表面がつるつる)から、
水性マーカーで色につかない所は紙のテープで色をつけたいという申し出があった。
- ・トイレトペーパーの芯で発泡スチロールを切る実験
トイレトペーパーの強度で物を切ることができた。
- ・ロボット掃除機
収納するケースをティッシュボックスでつくり方段ボールで本体を作っていた。
方段ボールのガタガタの部分が機械の部分を連想させた様子だった。
- ・花
トイレトペーパーを輪切りにした部分を花の中心にし、
花びらの部分の芯のあまりを使用してつくっていた。
芯の硬さを利用して花びらがピンとしているとのことだった。

③<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・自分たちで意見を出し合っただけで進めていく活動は、
一人ひとりが生き生きとしていて積極的に活動できた。
 - ・また、友だちの気付きや作品にも興味をもち質問をしたりすることで、
物の見方、考え方の視野が広がった様子だった。
 - ・人前で自分の考えや作品をじっくり発表することが中々ない為、
その難しさや、楽しさ、緊張を味わうことができた。就学前の良い経験につながった。
 - ・発表の中で質疑応答の時間を取ることで、どんな言葉をかけたら良いか等、
言葉を選びながら参加できていた。
- 作り始める前に完成品をイメージできるタイプ、作っていくうちに作るものを決めるタイプがいて、それぞれが考えを持って製作していることに気づいた。
スマートフォンを作ったチームは、型を押さえる人、型をとる人に分かれて協力して1つのものづくりをしていて、協調性も身についた。

5 ③<活動の様子>

